

日本側拠点機関名	東北大学大学院医学系研究科
日本側コーディネーター所属・氏名	東北大学大学院医学系研究科・押谷仁
研究交流課題名	アジア・アフリカ地域の小児急性呼吸器感染症対策のための研究ネットワーク形成
相手国及び拠点機関名	フィリピン・国立熱帯医学研究所 インドネシア・シャリフ・ヒダーヤットゥラ国立イスラム大学 カンボジア：国立公衆衛生研究所 ザンビア：ザンビア大学教育病院

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間(最長3年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

小児肺炎を含む小児急性呼吸器感染症は低・中所得国の小児の最も重要な死亡原因であり続けている。しかし、小児急性呼吸器感染症対策としては未だに 1980 年代のエビデンスに基づく対策を基本としており、大きく進歩していない。5 歳未満の小児死亡の削減を目標とした国連の Millennium Development Goal 4 (MDG4) の達成はできなかったが、その理由として、他の主要な死亡原因による死亡率が低減される一方で、急性呼吸器感染症の死亡率低減が不十分であったことが指摘されている。東北大学大学院医学系研究科はフィリピン・熱帯医学研究所 (RITM) との間で 2008 年より急性呼吸器感染症に関する研究を実施してきている。これらの研究を通して、重症急性呼吸器感染症での入院患者の原因として RS (Respiratory Syncytial) ウイルスなどのウイルスが重要な位置を占めていること、多くの患者が医療機関を受診していない実態、プライマリーケアの現場でのパルスオキシメーターの有用性などを示してきた。さらに、急性呼吸器感染症によって重症化・死亡に至る要因としては、低栄養・基礎疾患などのホスト側の要因、家庭の経済的状況・医療機関へのアクセスなどの社会・経済的要因、受診行動、医療機関での初期治療の質などの複雑な要因が関与していることも明らかにしてきた。**本事業では、これらのフィリピンでの研究成果を基盤として、新たにインドネシア・カンボジア・ザンビアとの研究ネットワークを形成しそれぞれの国で死亡率低減を目的とした介入研究を実施できる基盤を確立する。**さらに、これらの国々においてパイロットプロジェクトを実施し、小児急性呼吸器感染症の基礎的データを収集・解析するとともに、急性呼吸器感染症対策を実施するために共通の課題およびそれぞれの国に固有の課題を明らかにする。**最終的には、小児の急性呼吸器感染症の死亡率低減の阻害要因および最も有効であると考えられる介入ポイントを明らかにし、低・中所得国での急性呼吸器感染症による死亡率低減につながる研究へ発展させることを目的とする。**

【研究交流計画の概要】 共同研究、 セミナー、 研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

共同研究：共同研究については主にインドネシア・カンボジア・ザンビアにおいてパイロットプロジェクトを行うものとする。研究サイトとしては急性呼吸器感染症の重症化、特に死亡のリスクファクターを解析するために重症例の多く入院する病院サイトとコミュニティでの急性呼吸器感染症の実態や受診行動を含む重症化要因を明らかにするためのコミュニティサイトを設定して行うものとする。データ収集は共通のプロトコルを用い、それぞれのサイトでの共通の課題・固有の課題を明らかにし、将来の介入研究につなげる基盤となるデータを収集・解析するものとする。

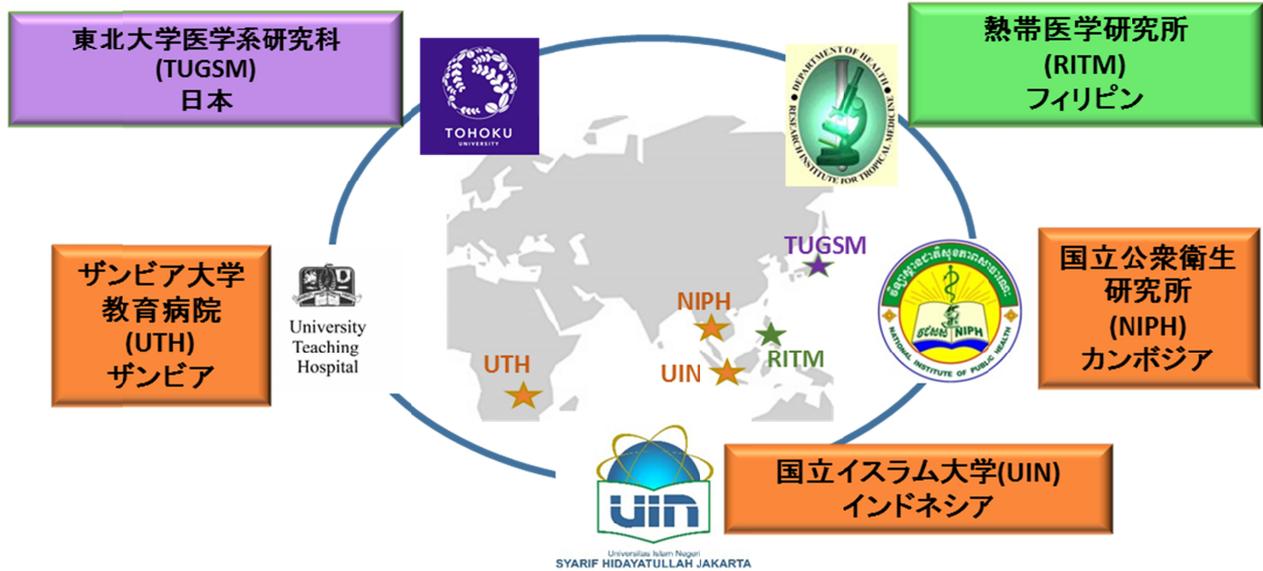
セミナー：初年度のセミナーはフィリピンにおいて開催し、これまで東北大学とフィリピン・熱帯医学研究所が共同で実施してきた急性呼吸器感染症に関する大規模なコホート研究の実施サイトであるピラン島を訪問するとともに、これまでのフィリピンでの研究成果を軸として意見交換を行う。2 年度は日本でセミナーを開催しこれまでの研究の進展や課題についてのアップデートを行う。最終年度である 3 年度はインドネシアで開催し、現地での状況を確認した上で今後の研究の展開について議論を行うものとする。

研究者交流：年 1 回程度の頻度でインドネシア・カンボジア・ザンビアの研究サイトを、若手研究者を含む日本人研究者とフィリピン人研究者が訪問し共同研究を推進する。また、インドネシア・カンボジア・ザンビアの若手研究者を短期に日本・フィリピンで受け入れ研究手法についてのトレーニングを行い、研究基盤の強化を図る。

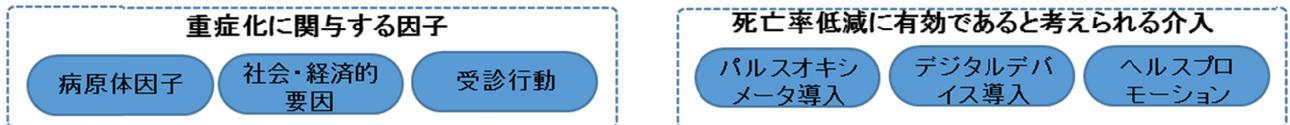
グローバルヘルスの最重要課題としての小児急性呼吸器感染症

- ・ 全世界で今も毎年100万人近い小児が肺炎などの急性呼吸器感染症で死亡
- ・ 小児急性呼吸器感染症での死亡の80%以上はアジア・アフリカ地域で発生
- ・ 小児死亡の低減を目指したMDG4は達成できず、新たなSDG3でも小児死亡の低減は重要な目標
- ・ 小児急性呼吸器感染症は特にアジア・アフリカ地域でグローバルヘルスの最重要課題

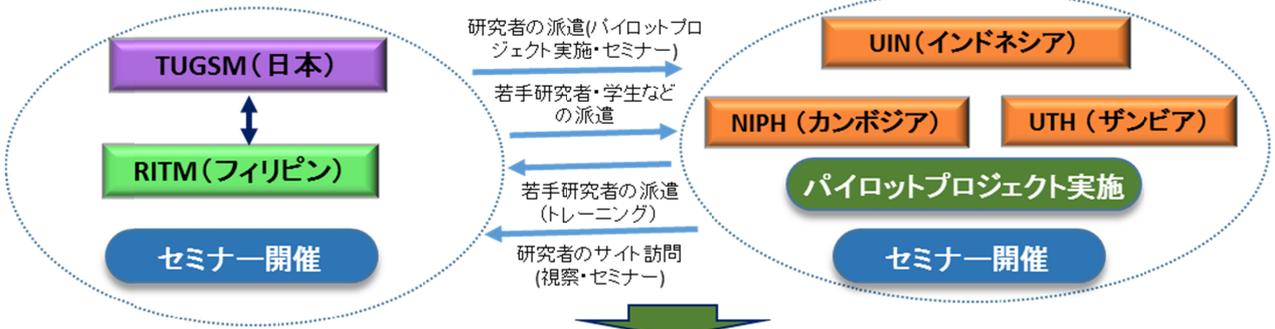
国際研究ネットワークの形成



東北大学ーフィリピン・熱帯医学研究所間で小児急性呼吸器感染症の研究成果の蓄積



これまでの研究成果を基盤として、東北大学・RITMが協力して国際研究ネットワークを拡充



小児急性呼吸器感染症に関する国際ネットワークの構築
 シンプルな同一プロトコールによる共通の問題・固有の問題の整理
 本格的介入研究を実施するための基盤の整備